

都道府県協会及び所属チーム・会員の皆様からのご意見・ご質問の中から、見解の相違がある事項や回答が必要と思われる事項について回答させて頂き、その他ご意見等と併せて、公式サイトや案内において活用させていただきます。  
また、いただいた質問と回答の項目が異なるものがあったり、説明資料及び配布資料で説明しているものについては本回答から省かせていただいております。ご了承ください。

2-1	NEXT10およびSEED2013について	加盟団体総会について	来年度以降も開催し、各都道府県協会の取り組みを共有したり、日本協会との連携を強めるための取り組みとして推進してまいります。
2-2		幼児・低学年について	このカテゴリについては特に競技性を強く打ち出さず、『遊び』感覚も導入していけるようにいたします。
2-3		シニアカテゴリについて	小学生カテゴリのD-1、D-2のすみわけ同様、シニアカテゴリ内のすみわけも検討を重ねてまいります。 ルールにおいても、シニアカテゴリのそれぞれの部門にふさわしいルール策定を検討してまいります。
2-4		幼児から小学生、シニアとの繋がりについて	これまで足りない部分であり、今後、重要課題となるものです。各都道府県における成功事例、試験事例などを共有してまいります。
2-5		D-2カテゴリ、D-3カテゴリの運用について	これまで同様、日本協会として、全国統一の『取り扱い規則』の導入の予定はありません。各都道府県の実情に応じた運用を行っていただきたいと考えております。  D-2、D-3カテゴリはルールやレギュレーション等、都道府県の裁量の中で自由に行っていたためのカテゴリです。今後、このカテゴリが今後の発展への一歩であると考えておりますので、各都道府県における取り組みを全国で共有出来るよう、基礎概念の連携を図りたいと考えています。
2-6		D-1、D-2のカテゴリについて	(4-1)で後述いたしますが、カテゴリのすみわけを行い、レベルの似通ったチーム同士で対戦できることも、だれもが楽しめるドッジボールの役割のひとつと考えております。 そのため、D-1カテゴリだけではなく、D-2カテゴリの大会を推進していくことも重要であると考えます。
3-1	ユニフォーム規定について 正式運用に向けて	<p>詳細な部分に協会、チームも、理解度は高くないと思います。</p> <p>詳細な部分まで、ホームページ又は文書等での通達が必要ではないかと思えます。</p> <p>ユニフォーム(規定)の取り扱いには、いろいろな考え方、解釈があり、文書・カタログしか示されていないため、分かりやすくして欲しい。</p> <p>ホームページでのユニフォーム規定がある所がわかりにくい。</p> <p>チームだけでなく、スポーツ用品店の方々にも周知していただく必要だと思えます。(スポーツ用品担当者があまり把握されていないこともある)</p> <p>規定に沿ったユニフォームしか認めないといっていますが、一昨年贈呈されたユニフォームが最初から規定違反であり、それを着て試合がなされているというのはどういう事でしょうか？規定違反が公然とまかり通っているのに、その他は駄目であるというのは理解できませんし、おかしいと思えます。</p> <p>事前に各県協会やチームに意見を求めて欲しかった。</p>	<p>ユニフォーム規定施行に関して案内から施行までが短く、混乱を生じさせてしまった点についてはお手数をおかけし申し訳なく思っております。しかしながら、競技スポーツのカテゴリとして育てることを目指す以上、D-1、D-1Gカテゴリにおいてはユニフォーム制度は必要と考えます。</p> <p>2014年度からの正式運用開始に備え、協会、チーム及び、販売店も含め、理解と解釈が統一できるよう、ユニフォーム規定の改定作業を行っております。加盟協会の皆様を始め、チーム、スポーツ店等それぞれの立場から寄せられたお問い合わせを基に、解釈を一致できるよう調整しています。</p> <p>移行期間中に各方面から寄せられたご意見を基に、最終のとりまとめと規定の改定を行います。</p> <p>また、移行期間中、規定の各表記をどこまで厳格に定めるかという点で解釈に不一致が生じ、一部に混乱を招いており申し訳ありません。現在は個別にデザイン案を示して頂く事で対応していますが、正式適用前に解釈の範囲も表記できるよう進めております。</p> <p>なお、移行期間中の変更についてはさらなる混乱を生じかねないため、予定が無くご希望に沿えないのですが、ユニフォーム規定改定後の正式運用の際は競技面、運営面、規定自体の主旨等を総合して反映できるよう進めておりますのでご理解頂けますようお願い致します。</p>
3-2	ユニフォームの取扱について 適用期間	<p>2014年度よりルールに則ったユニフォームに変更すべくチームに指導している。すでに10チーム以上が新ユニフォームを作成中である。</p> <p>チーム代表者と相談し早急に実施したい。</p> <p>現状、都道府県予選とブロック大会は、ユニフォーム規定適用範囲を主催(主管)協会の判断に任せているが、移行期間終了後はどのように考えているのかご確認願います。</p>	<p>ユニフォーム規定の適用について、2013年度末までの移行期間における予選会は、主催協会・主催ブロックの判断が優先されます。</p> <p>2014年(平成26年)4月1日からは正式適用となり、予定どおり一律の運用となります。ただし、解釈が困難な点や、不明瞭な点についてはわかりやすく補足するなどの改定を(3-1)のとおり行います。</p> <p>全国大会及び、正式運用に向けた回答としてご理解頂くようお願い致します。</p>

都道府県協会及び所属チーム・会員の皆様からのご意見・ご質問の中から、見解の相違がある事項や回答が必要と思われる事項について回答させて頂き、その他ご意見等と併せて、公式サイトや案内において活用させていただきます。  
また、いただいた質問と回答の項目が異なるものがあったり、説明資料及び配布資料で説明しているものについては本回答から省かせていただいております。ご了承ください。

3-3	ユニフォームの適用範囲とカテゴリーについて	<p>新しいチームに協会規定の選手番号の購入は負担が大きい。全国大会以外は県協会規定にしては？</p> <p>新しいクラブにはユニフォームは負担が大きい。小学校で参加している先生方については保護者に言えない。</p> <p>従来の規定を貫くべきだと思うが、例えば他スポーツチームがメンバーを組んで試合に出たいなどの場合、すぐ規定を適用するのは困難。3年以上継続したチームはユニフォームを作るなどの条件を作るにより気軽にD1の試合に参加できるようにするなどの条件を付けてはどうか。</p> <p>ユニフォーム規定がチーム普及の大きな壁になっている一面もある。</p> <p>ユニフォーム作成には経費がかかり、翌年は番号が変わったりして、サイズが合わなかったり貸与・着用に苦労する。</p> <p>D2、D3についてもユニフォーム着用は必要になるのか？</p>	<p>新チームには厳しいというご意見は多く寄せられていますが、やはりD1・D1Gカテゴリーの予選会から全国大会までは競技種目としての確立を目指しています。 D-1およびD-1Gにおける大会・試合にあたっては同じ基準で臨むことを求めており、やはりビブス・ゼッケンの使用を認める予定はありません。</p> <p>経済的な面との調整を図る場合の例としては、台紙に選手番号を圧着した形で1~20までの選手番号を準備して頂き、大会ごとにウェアへ仮縫いで取り付けるなど工夫を加えて頂く事です。ご検討ください。</p> <p>また、新規チームと継続して活動しているチームとの差はユニフォームだけでなく、競技レベル自体にもあると考えています。 競技性を追求しないカテゴリー(D-1、D-1G以外)への適用はありません。 そこで、地域の状況に応じて対応可能なD-2カテゴリーの充実を図り、新規チームにはまずD-2カテゴリーを案内する形へ移行できるよう計画づくりのご協力、またご提案を宜しくお願い致します。</p> <p>2013年度末までは主催・主管協会と、ユニフォーム規定の取り扱いを協議の上で、決定する事が可能です 正式運用後の予選会については、やはり規定に沿ったユニフォームを着用して頂く必要があります。</p>
3-4	<p>ビブス・ゼッケンの取り扱いについて</p> <p>ノースリーブユニフォーム</p>	<p>選手番号だけのユニフォームを作り、貸し出すことを検討している。</p> <p>新規チームにはどう対処したらいいでしょうか。初年度のみは猶予をすとか、協会規定の選手番号を付けたビブス・ゼッケンを用意して貸与すとか、方法をお考えでしたらお教えてください。</p> <p>春の予選に合わせチーム結成し、参加するチームにユニフォームを作成して下さいとは現実的に言えない。そのため、ブロック大会まではビブス・ゼッケン可とし、全国大会では認めないという形を希望。</p> <p>全国全チームに統一2色のビブス・ゼッケン(青・白)など準備・保持させる方がBetterだったと思う。(全国どの大会でも統一して使用できるため)</p> <p>クラブチームの減少や少子化に伴う選手の激減に苦慮しております。要因については多々ありますが、経費の増額は大きなウエートを占めております。その中、他府県のクラブチームがビブス・ゼッケンに選手番号で許可をもらった話を聞き、協会として作成し各チームに貸し出す計画を進めております。(チーム名は各チームで作成し貼りつける。)このシステムが許可されるかをお訪ねします。</p>	<p>ビブス・ゼッケンでなくノースリーブウェアと解釈し、表示物等がユニフォーム規定に沿っていれば、指定の選手番号を取り付ける事でユニフォームとすることは可能です。Tシャツ等を下に着る場合はアンダーウェアと解釈しています。</p> <p>あくまでも、ビブス・ゼッケンの運用ではなく、ノースリーブウェアを特定のチームに貸し出すことを前提とする場合、都道府県協会、ブロック連絡会にてその取り扱いについて協議していただければと考えます。</p> <p>アンダーウェアは単色無地で『統一』されていることとし、メーカー、色の濃淡、長袖、半袖等の長さは問いません。 なお、アンダーウェアに他の色やロゴ等が含まれている場合でもノースリーブウェアの着用により完全に隠れるのであれば、単色無地のものとみなします。 ノースリーブウェアの下にTシャツなどを着る場合、ユニフォームの下に重ね着しているものなので、アンダーウェアの基準に適合する必要があります。ノースリーブウェアの生地が薄かったり、メッシュ加工を施されていたりすることで、アンダーウェアの他の色やロゴ等が透けて確認できるものは、基準に適合したアンダーウェアではないと判断します。</p> <p>都道府県協会と議論していただき、またブロックにおける取り扱いも議論していただき、正式運用に向けて、ご協力、ご提案いただければと思います。</p>
3-5		<p>協賛大会時には協賛社のビブス・ゼッケンを使用したい。</p>	<p>協賛社の広告入りノースリーブウェアについては後日改めて回答とさせていただきます。</p>
3-6	ウェアとウェアの業者について	<p>インターネットでユニフォームを作成するクラブもあります。</p> <p>自由に制作させていただきたい。メーカー指定は行き過ぎだと考える。</p> <p>上下のメーカーが違うとNGという規定はどうかと思う。普及のためにもコストを抑える方法が必要。</p> <p>一業者のみに選定し任せるというのも異常です。どの業者でも規定を順守すれば良いというのであれば納得できません。</p>	<p>●ウェアについて ウェアについては、現在もメーカーの指定はありません。すでにお使いのウェアが他の項目で規定を満たしていたら、指定の選手番号を取り付けることで使用可能です。</p> <p>●メーカーについて 上下で同一のメーカーで統一する必要はありませんが、全ての選手が同一デザインのウェアを使用していただく必要があります。</p> <p>●デザインについて 明らかに異なると視認できるものを除き、メーカー、色の濃淡、長袖、半袖等の長さは問いません。 (3-4)におけるアンダーウェアの考え方と同一ですが、ウェアの場合は単色無地である必要はありません。</p>

都道府県協会及び所属チーム・会員の皆様からのご意見・ご質問の中から、見解の相違がある事項や回答が必要と思われる事項について回答させて頂き、その他ご意見等と併せて、公式サイトや案内において活用させていただきます。また、いただいた質問と回答の項目が異なるものがあったり、説明資料及び配布資料で説明しているものについては本回答から省かせていただいております。ご了承ください。

3-7	選手番号について	<p>選手番号制作をミズノ以外のスポーツメーカーでも可能にしていきたい。</p> <p>対戦チーム同士が同色の場合、審判がジャッジしづらいです。同色の場合、ピブス・ゼッケンを着用させるなどの対応を検討してはいかがでしょうか。</p> <p>審判・線審から見やすくなるという基に決められたことと思いますが、金・銀の選手番号は線審と反対側の内野の選手番号が確認しづらく、白黒の縦じまに銀の選手番号は線審からは全く不明確です。これもまた規定を作成した時の意向に反していませんか？</p> <p>JDBAのロゴの使用料を日本協会に払うようにして、(選手番号の)各デザインは規定に沿うことを条件に各チームに任せたいかがでしょうか？必要であればデザインの段階で提出して承認を得るようにしたらどうでしょうか。</p> <p>業者には優秀なデザイナーはいないのでしょうか？現在の選手番号デザインはあまりに幼稚でありつまらないデザインです。</p>	<p>●選手番号指定について 制度移行期間においては、立ち上げ時からの全国規模での安定供給、各地域の意見を集約できる事、これまでの実績等を総合的に考慮した結果としてミズノ社と契約しております。移行期間内に一定のご意見が集まる目処が立ちましたので、正式運用後は他の製品も使用できる形で検討しています。</p> <p>●色識別について 導入当初に事前に同色同柄でのテストを行っていること、選手がコート内で交わるサッカー等のゴール型ゲームと異なり、プレイコートが分かれているという競技特性もあることなどから特別な問題は無いと認識しています。</p> <p>●選手番号の組み合わせについて 主観による部分や会場の明るさや反射等の影響も確かに大きいようです。しかしながらこの要素が最も影響するのは審判員の判定時のため、できる限り各段階の競技委員会を通じた形で意見を上げて頂くことでとりまとめたいと考えております。競技委員会の検討結果によっては、制度側だけでなく、審判員側の研修による経験の強化等も必要となるかもしれないため、引き続き情報提供とご協力お願い致します。</p>
4-1	個人登録制度全般	<p>競技人口をどのようにして増加させるか明確な指針を示したうえでの制度改革が必要</p> <p>チーム登録数の激減があり、運営が厳しい中、個人登録についてはさらに減少するおそれあり</p> <p>審判員とインストラクターの登録は、二重にする必要なし</p> <p>登録費が高額となる様では、大人もドッジボールから離れて行くのでは？</p> <p>明確にする上で必要と思われるが、個人登録制度は手間がかかると思われるし、メリットが分かりにくい</p> <p>資格の更新費用を下げたい</p>	<p>狭義の『競技人口』を全国大会の出場権を競うというD-1・D-1Gに限られてしまうかもしれませんが、本来の競技団体として目指す競技人口分布は初心者になるほど多くなると考えています。競技性を追及しないD-2カテゴリーや、低学年のジュニアカテゴリー・幼児カテゴリーのドッジボールへの入り口としてボールに親しんでもらうD-3カテゴリーをしっかりと拡充させることで、活動人口全体とした場合の減少を抑えることを目指す方向へと方針転換を図っていけるよう、日本協会としても加盟団体のみならずと連携を図っていきたく考えています。</p> <p>個人の環境は常に変わり、それに伴って関わり方も変わります。それは協会における競技者・指導者・審判員という資格の枠内だけには限りません。スポーツ医学等の学問として関わる場合もあれば、単にスポーツ愛好家となる場合もあります。一時はドッジボールから離れ、また戻る事も当然起こります。いつどんな目的でドッジボールに接するかは人それぞれ異なりますが、生涯スポーツとして「いつでも・どこでも・誰とでも・そしていつまでも」を実現するには、個々の環境に捉われず、これらの方たち全ての支えを得ることが大切と考え、個人登録制度を設計していきます。</p> <p>この制度は、すでに資格登録をされている方において、単純に負担を増やし協会の収入を増やすことはもちろん、協会メリットを第一に考えることを目的とした制度ではありません。現状でも審判とインストラクターの枠組で個人登録制度は運用されており、選手登録(中高生・社会人)について拡大するものです。ここで、二重の負担を生じないように設計していきます。他の競技等の情報を参考にしながら検討を重ねますが、更新費用の減額よりも、更新に見合った事業の充実や資質向上を優先し、また、講習の内容を充実させ、資格の重要性や活躍の場の拡大を図ることにより、会員の方々に必ずご納得いただけるものと確信しております。</p>
4-2	公認指導者チーム	<p>NEXT10、SEED2013の最重要課題はチームの普及と考えます。チームが増えれば、指導者や審判員の普及につながり、並行して制度を確立すればいい</p> <p>D-1チーム義務付けとなると、更にチーム数減少につながる</p> <p>公認指導者制度は参入を妨げる要因となります</p> <p>指導者資格がないとゆくゆく指導出来ないと公表されていますがチーム数の減少にならないか</p> <p>指導者の研修の必要性を感じる。各登録制度が簡易になるなら推進したら良いと思う</p> <p>年間を通じ活動しているチームばかりではなく、年度途中からドッジボールを行う地域やチームも存在します。</p>	<p>(4-1)と重複しますが、D-1・D-1Gについてはあくまでも競技スポーツとしての発展を考えています。年々競技レベルが向上している中で、初心者と経験者の差はさらに広がるのが予想されます。</p> <p>この状況で、指導者が個々の環境や経験則に捉われた指導に頼る事は危険であり、また、子どもの成長ペースや興味の移り変わりは個人ごとに違い、小学校では目立たない子や、ドッジボールに関心が薄い子もいる中、やはり共通の認定講習を行い、多くの方に資格を取得して頂くことは必要と考えます。</p> <p>また、現在は小学校時代の経験者が指導者となるケースが増えてきています。一方、小学校時代は未経験の方が興味を持ったとしても、この年代を対象とした指導者教育が不足しているはそれ以上のドッジボール人口の増加を見込めません。</p> <p>教育者やスポーツ指導員の他、上記経験者・父兄のみならずが公認指導者として他のスポーツとの共通点を学び、また運動機能を正しく理解する方を増やすことで、かつて他の競技に打ち込んできた方や、スポーツに興味を持ち始める時期が遅かった方など、スポーツ及びドッジボールの経験が薄いま卒業した指導者となる方への対応の改善を目指します。</p> <p>(4-4)でも触れますが、他競技における指導者資格(体協認定等)保持であれば、ドッジボール専門科目を受講していただくだけでJDBAの指導者資格を有することも可能となるよう制度設計中です。</p> <p>なお、D-1(D-1G)とD-2カテゴリーのレベルやチームのすみわけを行い整備することで、D-1またはD-2で同レベルの競技力の中で、ドッジボールを誰もが楽しむことができる環境を作り上げ</p>

都道府県協会及び所属チーム・会員の皆様からのご意見・ご質問の中から、見解の相違がある事項や回答が必要と思われる事項について回答させて頂き、その他ご意見等と併せて、公式サイトや案内において活用させていただきます。  
また、いただいた質問と回答の項目が異なるものがあったり、説明資料及び配布資料で説明しているものについては本回答から省かせていただいております。ご了承ください。

4-3	公認指導者 資格	公認指導者制度は、小学生カテゴリーだけに適用されるのか？	現在、最も競技者が多いカテゴリーはやはり小学生のD-1カテゴリーですので、当面はそこが中心とはなりません。しかし、生涯スポーツとして一貫性を持たせるにはその他のカテゴリーへも範囲を拡大していかなければならないと考えています。 (4-2)で触れているよう、指導者としての資格の必要性を訴求してまいります。また、D-1(D-1G)とD-2のすみわけにおいて、競技性を追及するD-1チームの指導者として研修は必要であると考えますし、逆にD-2等において、ドッジボールとしての楽しさを伝える方々に対する、インストラクターの資格についての取り扱いは後述のとおり、継続検討中です。
		取得した人と取得していない人との差別化はしなければいけない事ですが、時間をかけて行わないと、ドッジボールチームの減少の要因になりかねない	
		公認指導者は日体協の免許とは兼ねられないため意味が無いのでは？	日本体育協会資格との兼ね合いについては、専門科目として認められるカリキュラムの構築を図っています。複数のスポーツにも関心がある方にとっても、無駄にならないよう調整を進めます。なお、指導者には責任も伴うと考えられるため、日本体育協会公認スポーツ指導者資格の中には中高生を対象としたものはありません。日本ドッジボール協会の資格として単独で設計するかどうかは検討中です。
		チーム監督など、ベンチ入りの成人は、公認指導者資格の必要あり	また、監督やコーチ等ベンチ入りする方への指導者資格の取得の範囲などについては、現在ベンチ入りしている監督以外の属性(指導者・マネージャー・中高生OBOGなど)を踏まえ今後、検討を重ねてまいります。
		指導者資格は、中高生にも広げるのか インストラクター資格制度廃止通達に関して	当初インストラクター資格から指導者資格への全面移行の方針を進めていたため、今年度の更新案内で送らせていただきました。 しかし、日本体育協会との指導資格における協議を進めるにあたり、当初想定していた指導者のカバー領域が予想以上に広く、インストラクター資格をそのまま指導者資格として移行することが適さないとの判断に至りました。 その上で、指導者資格のうち、説明資料における単位のうち、ドッジボールの入り口となる部分においてはこれまでのインストラクター資格のノウハウが生きており、認定講習会においてもその単位を認める方向で進んでおります。なお、この部分について、インストラクターとしての名称を残すのか変更するのかが現在は現在検討中です。現有資格者のみなさまへは配慮が足りず、検討中段階とはいえ、大幅な方針変更のため混乱を生じさせてしまい、申し訳ありません。
4-4	公認指導者 内容	指導者認定講習会講師は、どのような資格をお持ちの方が行われるのでしょうか？	説明資料における、それぞれ①～④科目に応じた専門の担当者が講師となります。なお、日体協の有資格者も含まれます。
		指導者からの体罰は絶対禁止の項目を明記して欲しい	日体協からは繰り返し、体罰＝暴力として各団体とも排除に取り組むよう、指示を受けております。
4-5	中高生・一般選手登録	選手個人登録に関しては、各都道府県事務局の方に多大な負担となると思います。	小学生カテゴリーと異なり、シニアカテゴリーでは、大会ごとに異なるチームで出場したり、参加メンバーが毎回異なったりすることが見受けられることから、移籍手続き、重複エントリー確認を行う煩雑さを省くため個人登録を行うものです。
		チーム数の減少を食い止める、または増加に転ずる、シニアカテゴリーの競技者を増やす、と言う事にマイナス要素にならないか不安	個人登録によって、各都道府県における活動実態を把握するためのチーム登録などの手続きを妨げるものではありませんので、必要に応じて、シニアチームのチーム登録などの運用を行ってください。
		シニア参加者のスポーツ傷害保険等はどのような対応がとれるでしょうか。原則チーム単位での加入です。	(公財)スポーツ安全協会のスポーツ安全保険への加入が掛金・補償範囲の観点から望ましいですが、原則は「スポーツをカバーしている傷害保険に加入していただくこと」になりますので、所属チームがない場合は個人での傷害保険への加入になります。
4-6	審判員	審判登録者の1/3は大会での審判経験無し。チーム及び資格がいるための登録者でありルールブックの負担が大きい。	公認審判員資格を持っている方は、コート内外を問わず審判員としての判断を求められる可能性がありますと考えています。そのため、やはり最新の公式ルールブックは個人必携とさせていただきます。 しかしながら、実際には保護者だったため審判活動を行わないけれど資格を取得したというケースは考えられます。都道府県協会としても財源として、年間登録料およびルールブック販売手数料収入を見込める側面もあると思います。
		審判員については、何年に一度かの簡単な更新講習会受講を必須としてはどうでしょうか？	今後も審判員の活躍の場が広がるだけでなく、日体協加盟により他の競技との比較も起こり得るため、資質向上の施策は前向きに検討します。
5-1	チームサイトおよびエントリーなど	チームから大会エントリー内容を確認する方法が分からない エントリーデータの参照方法は？ エントリーデータを提出させたい。	5月下旬より、チームサイト上での大会エントリー完了時に、自動返信メールが代表者宛てに届くよう改善しました。(別紙大会エントリー完了自動返信メール例) また、チームサイトからは、大会エントリーしている大会名の右横の「済」ボタンを押すことでも確認可能です。チームが大会エントリーデータ提出させる際は、メールの印刷等をご利用いただけるようになりました。
5-2	チーム登録情報(I)と大会エントリー情報(II)の関係がチームに伝わりにくい。 エントリーのタイミングがよくわからない	イメージとしては、従来の紙ベースで行われていた時の「チーム登録用紙(旧I)」と「メンバー表(旧II)」との対応関係にあたります。 紙ベースの時と同じようにいつでも変更できるチーム登録(I)とは別に、予選～全国大会を通して試合に臨むメンバーを確定する作業として大会エントリー(II)を必要としています。 その為、大会エントリー(II)を行った後にエントリーするメンバー変更を行いたい場合は、チームサイトにて、大会エントリー(II)の取消作業後、チーム登録情報(I)変更→再度変更後のエントリーメンバーを選択し、大会エントリー(II)の一連の作業を行います。 但し、上記一連の作業は、大会エントリー期間内に行わなければいけません。	
5-3	よくチームの担当者が変わり、締め切り間際に操作が伝わっていない事に気づくことが多い。	繰り返し操作を忘れていないかのご確認を促して頂くしかないので、大会エントリー期間は主催協会でも変更できるので、最初は早めの締め切りを設け、代表者会議等で忘れていないかを再度確認→最終の締め切りを設定するという方法をとっている場合もあります。	

都道府県協会及び所属チーム・会員の皆様からのご意見・ご質問の中から、見解の相違がある事項や回答が必要と思われる事項について回答させて頂き、その他ご意見等と併せて、公式サイトや案内において活用させていただきます。  
また、いただいた質問と回答の項目が異なるものがあったり、説明資料及び配布資料で説明しているものについては本回答から省かせていただいております。ご了承ください。

5-5	事務局サイトおよび取り扱いなど	パソコンが不得意な人へも配慮して欲しい。 大会エントリーの必要性が分からない。	全国大会は当会の最高峰の競技会として位置付けており、そこを目指すチームは同じ手続きをもって臨んで頂きたいと考えています。また、データベースが稼働した当時よりも通信機器の普及はかなり進んでおり、今から紙に戻す予定はありません。 チームの総合力を競うためのスタートとして重要な手続きであることを再度お伝え頂き、ご理解を促して頂けますようご協力お願い致します。
5-4		周知が足りないのではないかと 都道府県協会としてもっと周知したい	これまでの通知はチームへの登録完了後(承認後)の書面と年度初めの都道府県協会への書面等でしたが、実際の画面表示などの視覚的に分かる要素が少ないため、分かりづらい面や、流し読みをしてしまった例が生じてしまったと思います。 実際に仮の大会エントリー画面を表示して流れを説明する資料を用意しましたので、ご利用ください。また、日本協会HPにもPDF形式で掲載しております。
5-6		チームサイト内に、チームの操作状況に応じて助言が出るよう改良して欲しい。	ネットにアクセスする機器や規格は今後も増え続けると思われることと、費用等を合わせて考慮すると、一連の操作にあまり付加機能をつけられないのが現状です。 自動返信メールでかなり状況は改善されたと思うのですが、もしチームから不安要素が聞かれた場合は、大会エントリー期間内でしたら対応を考える事が可能ですので、日本協会事務局まで問い合わせさせて頂くようお願い致します。
5-7		大会結果入力が機能していない。	長らくお待ちしましたが、今回の夏の予選からは事務局サイトで大会結果入力も行えるようになりました。
5-8		事務局サイトでもチームサイト内の入力画面を見られるようにして欲しい。	各チームで行うことを前提としているため、現状では事務局サイト内にその機能をつける予定はありません。 但し、ダミーチーム(チーム名の前に[ダミー]〇〇ファイターズとする)を各加盟団体に設置するよう、システムと検討を行っていますので、ダミーチームを通じてチームサイト内の画面や大会登録後の動作確認などを行っていただければと思います。運用開始については、事務局サイト内のお知らせにてお伝えします。
5-9		ブロック会長から管轄内の都道府県情報を確認できるようにして欲しい。	現状では、上記同様各都道府県協会で作業することを前提としているため、所属協会の合意の上でアカウント・パスワードを伝えることで、個別に閲覧頂く形をとっていただいています。 都道府県とブロック双方で確認する事で作業漏れが減らせるようでしたら仕様変更したいと思いますが、特定のブロックだけを仕様変更するのは困難なので、全ブロックで一律に行うこととなります。
6	日本体育協会加盟	日本体育協会加盟で日本ドッジボール協会が得るメリット及びデメリット	加盟料支払いや手続きが増えること、協力を求められることがある点はデメリットといえるかもしれません。 しかしながら、独自活動での情報収集には限界が出ており、生涯スポーツとして確立するには他のスポーツとの交流が必要不可欠です。もちろん地域によっては全国大会代表チームには行政機関から援助が出ることや、体協加盟団体が都道府県単位で広がれば国体等も視野に入ります。さらに他のスポーツに取り組む優れた競技者・指導者・審判員の関心を得ることで、協会組織の活性化を期待できます。
		日本体育協会は、下部組織として各種競技団体の頂点組織と思うのですが、非営利団体ばかりが加盟しているとは思えませんが協会として、どの様に考えて加盟する方向にいったのか	スポーツ団体として活動する上で、他のスポーツ団体の長所は学ぶ必要があると考えます。また、同じ土俵に上がる事で、外部の指導者・競技者・審判員を取り込める可能性も増え、逆にドッジボールから始めた方が他のスポーツに関心を持つことでスポーツ文化全体を活性化することにもつながります。 これらの考えから、スポーツを通じて国民の心身の健康に寄与するという目標に近づくには今回の加盟は必要との結論に至りました。
7-1	他	D-1の人数について 競技人数 登録人数	現行の12人制と20人登録についての議論は以前からもいただいております  小学生カテゴリーにおけるチャンピオンシップ大会を目指す、D-1・D-1Gカテゴリーにおいては、全国統一のレギュレーションを変更することは簡単なことではなく、当面変更を加える予定はありませんが、今後も引き続き競技としての成熟を目指す上で短絡的ではなく、長期的な検討課題として取り組んでまいります。  人数設定ですが、全国大会の予選ではない大会(D-2・D-3カテゴリー等)において、不完全チームの定義を変えたり、少ない人数設定をして普及を図るなど、チーム数を増やすという視点での人数の議論は様々な選択肢があると思います。チームのニーズに沿った、様々なテストをしていただき、日本協会にご提案いただければと思います。 登録人数においてもベンチ入り人数を増やすなど、皆様のニーズにお応えできるよう、今後も引き続き議論してまいります。 D-2カテゴリーやD-3カテゴリーの大会開催の普及を推し進め、例えば21人であれば、D-1登録12名、D-2登録9名ということでそれぞれの目的に応じたドッジボールの楽しみ方もできる場合もあるかと考えます。また、単純に少子化というくりにするのではなく、1人、2人の仲間を増やすことも重要な要素のひとつではないでしょうか。
7-2	他	D-1Gについて 全国大会の価値は? どうやって増やすのか	D-1Gの全国大会を開催される価値があるかどうかは、最終的にはD-1Gの全国大会に出場するチームが判断するものだと考えます。 少なからず、全国大会に出場している選手の顔を見れば、価値のあるものだと断言できます。しかし、さらに価値を高めるためには行動をしなければなりません。 日本協会としてもD-1Gがより価値のある舞台となるような方法を検討しておりますので、各都道府県協会におかれましては「まず動いてみる」ということをお願いしたいと思います。
7-3	他	選手が他県へ登録できるのはおかしい。(管理できない)	個別の事情により県を跨いで活動されているチームもあります。 規則上は、D-1・D-1Gそれぞれにおいて重複登録は出来ないこととなっております。 D-1・D-1Gについてと思われそうですが、現状では開催後のトラブルを避けるため、それぞれの都道府県の大会要項等で事前に記載して頂くか、当該都道府県同士での対応をお願いいたします。

都道府県協会及び所属チーム・会員の皆様からのご意見・ご質問の中から、見解の相違がある事項や回答が必要と思われる事項について回答させて頂き、その他ご意見等と併せて、公式サイトや案内において活用させていただきます。  
また、いただいた質問と回答の項目が異なるものがあったり、説明資料及び配布資料で説明しているものについては本回答から省かせていただいております。ご了承ください。

7-4	他	全国大会の開催地について 北海道を選定した経緯	<p>これまで東京(首都圏)と大阪で主に全国大会を開催してまいりましたが、会場使用料が高価であることや、他の競技団体よりもドッジボール競技の力が弱く、希望をする日に希望する会場を押さえることが難しくなっている状況になってきております。また、開催日の確定が1年前を切らなければ、他団体が仮押さえの関係で仮予約の状態であることもあります。</p> <p>そんな折、北海道協会より「全国大会を北海道で開催できないのか」というご要望をいただき、その後、実際に招致のための提案書を受け取りました。北海道協会と何度も面談を行い、現地視察し、理事会で検討を重ね、最終的に北海道開催を決定いたしました。</p> <p>「全国大会という舞台を多くの子どもたちに見てもらい、普及につなげたい」という北海道協会及び所属チーム関係者のみなさんの熱意もあり、北海道で全国大会を開催する運びとなりましたが、他のブロックであっても同様に検討いたします。「私たちの街で全国大会を！」という機運が様々な場所から高まってきてほしいと願っています。</p>
7-5	他	全国大会における減点制度について	<p>日本協会としては、小学生の大会において、勝ち点減点というような懲罰を与える方法を取ることが最善だとは思っていません。</p> <p>しかしながら、全国大会という場において、当日の所定の手続き時間を守らない体育館利用マナーを守らない等、最低限守らなくてはならないことを守れない大人が増えてきているという事例もあります。減点をする事で罰することが目的ではなく、子どもたちがルールを守って競技をしているのだから、大人たちもルールは守りましょうという意味合いで設けてさせていただきました。</p> <p>一方、これまでの大会規則では、受付時間までに間に合わなければ一切の出場資格を失うというものでした。残念なことに昨年の夏、この事案が発生してしまいました。チームは予選の最終試合には間に合いましたが、このチームは一生懸命試合をしたものの、公式記録としては0対11となっていました。会場における短い時間で検討を行い、判断した結果でありました。これについて、救済してあげることができないのかということで、議論を行い、「勝ち点を得られるチャンスは残す」という総合的な意味合いにおいてこの減点制度の取り扱いとさせていただきます。</p>
7-6	他	全国大会の運営費用をもっと削減すること、スポンサーを増やして参加チームの負担軽減を図るべきではないのか？	<p>全国大会の費用削減やスポンサー集めについては様々な工夫をしていますが、今後も継続して努力していきたいと思っております。各都道府県協会の皆さんにお願いしたいことは、スポンサーは無条件で金やモノを出してくれる存在ではないということを改めて認識し、少しでもスポンサー企業の製品を買うなどの「今あるスポンサーを離さない努力」を一緒にしていただきたいと思っております。</p>
7-7	他	ブロック体制を止め、夏・春共に、各県1チームが全国大会に出場できるようにしてはどうか。ブロック大会費用の削減、各県の負担軽減にもつながる。	<p>春の全国大会の在り方については、現在検討を行っているところです。</p> <p>しかし、チームによっては県内では1位になれないものの、ブロック大会に出場できることで思い出になったり達成感も得られたりしているということもあると思っておりますので、みなさまのご意見も踏まえ、多面的に検討していきたいと思っております。</p>
7-8	他	大会の名称について	<p>日本協会としては、「全国」「全日本」「ジャパン」等の全国大会を類推させる大会名、もしくは「日本ドッジボール協会」「JDBA」などの日本における競技統括団体が主催と類推させる大会に関するものについては規制させていただいております。</p> <p>具体例として、ジャパンカップの開催が挙げられますが、当該名称を使用される場合はこれに準じた使用申請などを経る手続きをおこなっていただきますので、加盟団体が行う大会に限らず、チーム・クラブ等が行う大会についても同様の扱いとさせていただきます。</p> <p>ブロック名(他の呼び名含む)、地方及び地域の名称を冠した大会(例北日本・北陸・中部・近畿・山陰)については当該ブロック及び都道府県協会における裁量でご判断ください。</p>
7-9	他	情報の発信元について 協会としての情報が少ない インターネットの方が便利 書面でもほしい	<p>情報の発信元は多岐にわたっても問題ないと考えております。</p> <p>現に各種SNSによる利用を行ってから、公式サイト閲覧数が上がっています。これは単に露出が増えたから公式サイトに足を運ぶ人が増えた、というものだけではなく、同じインターネットを使ったコンテンツでも、それぞれターゲットとなる年代や性別や趣味嗜好があると考えられます。これまで公式サイトに足を運ばなかった人がこれらのコンテンツの活用によって興味関心を寄せていただければ、このような取り組みも意義があるものだと考えております。</p> <p>但し、懸念されることは、各種コンテンツにおける情報と公式サイトにおける情報との間に差が生じてしまい、読み手を混乱させてしまうことにあるのではないかと思います。この点については十分注意をしながら行ってまいりたいと思っておりますが、もしこのような状況を発見した場合は、ご助言いただければ幸いです。</p> <p>日本協会事務局から各都道府県協会への情報提供についてもご意見をいただきましたが、事務局の作業の効率化や経費の削減効果を考えますと、電子的な処理に全面移行ということも考えられますが、レスポンスの観点においては、電子的な処理ではなかなかスムーズにいけない現状もあることから、確実に情報をご覧いただく方法を複数採用しております。</p> <p>今後、この点に関しても、都道府県協会の皆様のご意見をさらに成熟させて、統一を図り、業務負担、金銭的負担の両面で軽減を図るための方法を模索していくことを目指していきたいと思っております。</p>
7-10	他	スポンサーについて 協賛金 全国大会参加費 全国大会派遣審判員費用	<p>協賛社がつけば費用問題も一気に解決できるのですが、現状の経済においても、まだまだ非常に厳しい状況が続いています。</p> <p>本年度からは両方の全国大会に助成金を交付を受けることになりました。しかし、2つの助成金は異なる団体からであり、性質・中身が異なりますので、現在、どのような施策を行えば、出場チームにおける参加費の軽減や、審判員・スタッフの方に謝金の支給もしくは公平な費用負担軽減ができるのかを検討してまいります。</p>